

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471200667
法人名	有限会社 三輝
事業所名	グループホーム 米山
所在地 (電話番号)	登米市米山町善王寺相の田30-2 (電話) 0220-55-6333
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 11月 20日

## 【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 6.6

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有( 円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐幸医院、さとう歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

約2年前にグループホーム「加美」の法人が開設したこのホームは、共用エリアでの畳敷きの間の設置、車椅子のまま入れる広いトイレ、反対側の手すりに移り易い幅とした廊下、浴室脱衣場の一体用木製ベンチなどが工夫され、居室では8畳の畳敷きで自宅に居るよう雰囲気作りに配慮するなど加美でのノウハウを活かした造りとしており、入居者がゆったりと過ごせる環境となっている。運営面では、介護福祉士、介護支援専門員の資格を持ち、特別養護老人ホーム等での経験が長い管理者を中心に、職員全員が時間をかけて作成した新たな介護理念の実践を日々念頭において、入居者一人ひとりを尊重した日常生活の継続に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題では①理念を全員で時間をかけて討議し、新たに作成②運営推進会議の設置③食材関係装置器具(冷蔵庫、コンロ、食器、調理用具、テーブル等)の清掃消毒の確実実施④緊急時対応研修のケア会議での実施⑤無記名アンケートによる家族意見・要望の引き出しの試み等、着実に改善してきており、更なるレベルアップを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ケア会議を中心に職員全員で取り組み、各自の意見を出し合いながら時間をかけて自己評価票を作成、改善項目をまとめ上げ、入居者使用前のトイレ下見など、出来るところから改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 初回を3月に実施、以後2ヶ月周期で開催している。市職員、包括支援センター職員、区長、民生委員の方を構成メンバーとしている。地域との関連(連携)、市との連携、家族との関係、医療との連携など6項目について、長期的にメンバーの方から意見、指導助言が得られるよう、事前に関連資料を送付しておき会議を開催し、活発な意見交換を双方向で行えるよう工夫している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が自由に意見や不満、要望が言えるようにとの配慮から、無記名アンケートを実施。半数から回答を得て、運営推進会議にも報告している。特段の意見、不満は出されていない。今後、意見などが出し易い工夫をして定期的に行う方針としているので期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 盆踊りなどでの地域行事への参加、近隣の方へのホームだより配布、周辺散歩時の挨拶、声かけなどを通じて、日常生活での地域との連携強化がゆっくりと進められてきており、花などの差し入れ、ホーム敬老会への踊りボランティアの方の参加など着実に成果が出ている事が感じられた。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が参加し、地域密着型サービスのあり方を再検討し、20数項目出された介護のあり方のなかから3ヶ月をかけ、「一人ひとりを尊重し思いやりの心を持ち、明るく楽しく笑顔で、地域と共に生活する」という事業所独自の介護理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員で作った介護理念の具体的な実践に日々取り組むと共に、管理者、全職員が出席する毎月のケア会議の場でも理念の実践について話し合いをもち、共有化を図っている。理念は玄関にも掲示され、家族や来訪者の方が見られるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事である盆踊りなどにも参加している。月々の花名を名づけたホームだより(9月はこすもすだより)を発行し、区長さん経由で地域に配布している。また、ホーム行事の敬老会に踊りのボランティアが参加していただけるなど、ゆっくりではあるが、着実に地域との交流が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(1)前年調査要改善項目には、①職員全員で新たな理念作成に取り組んだり②運営推進会議の設置等着実に改善に取り組んできている。(2)今回自己評価には、ケア会議を中心に職員全員で取り組み評価票を作成し、改善項目をまとめ上げ、今後の改善に取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初回を3月29日に実施し、以後2ヶ月周期で開催している。家族、市職員、包括支援センター職員、地域区長、民生委員の方をメンバーとして、立場立場からの意見交換が行える構成としている。議題として、地域との関係(連携)等6項目をあげ、事前に資料を送付しておき、意見交換が双方向で行えるよう工夫が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南郷支所の介護保険課とは電話問合せだけでなく、出向いての相談を実施している。市からの依頼、連携などはまだ無いが、フェスティバルパンフレット配布やアンケートへの協力等に対応している。また、地域の方からの認知症関係の電話等での問合せには対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族あてに各入居者の日常生活状況、健康状態等の報告、預かり金収支報告を行っているが、預かり金収支報告では家族の確認署名を行っていない。	○	金銭管理状況報告は金額が小さいこともあって、金銭管理ノートのコピー及び領収書を送付しているのみであるが、今後は家族が金銭管理を確認した事を証するように署名又は捺印をして貰う等工夫をしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が自由に意見や不満、要望が言えるよう無記名アンケートを実施。半数から回答を得、運営推進会議にも報告している。特段の意見、不満は出されていない。今後、意見が出し易い方法を工夫しながら定期的実施する方針なので、それに期待したい。重要事項説明書にホーム、行政、国保連窓口の電話番号を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は開設後1名(病気退職)で、最小限に抑えられている。職員交代時には、いきなり代えるのではなく、入居者、家族に説明し、オーバーラップさせながら馴染みの関係作りを図り、入居者への配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を計画的に認知症介護実践者研修に派遣している。今年度3名の計画で、来年度も派遣を予定している。更に、レベルアップした第2ステップ実践者研修への派遣も計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、今までの職歴での人脈を活用したネットワークや地域のケアマネジャー協会での交流によりサービスの質の向上に努めている。また、職員は同一法人のグループホームとの相互交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族希望が優先され本人が納得しないまま入居し、入居後のケアが大変になってしまったケースが以前にあり、本人が納得してからの入居に努めているが充分とはいえない。	○	入居開始前に会いに行ったり来所して貰ったりして、本人の思いや状態の把握を行い、家族との間では本人が納得しないまま入居してしまった際の過去の事例を説明し、本人の意向を踏まえながら時間をかけて話し合い協力しながら、本人が安心して、納得した上での入居ができるよう努めていただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土のはっと料理では、はっとつみで得意技を引き出し職員も学んでいる。訪問時には柿むきを一緒に行っており、包丁の上手な使い方を学んでいた。食事時の片付け、テーブル拭きなども自主的に他の入居者のものまで職員と一緒にしており、共同で生活する関係を築いていることが感じられた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日9時30分に入居者、職員全員で清掃を行っており、自ずと自分の持ち場が決まり共同で行い、その後のお茶のみタイムでその日したいことを話し合い、本人の希望や思いを把握している。希望や思いは生活記録に記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が計画作成担当を兼務し、入居者と一緒に過ごすと共に、職員からの本人状況、意向の把握と家族意向も来訪時に把握しながら、介護計画を作り上げている。毎月のケア会議では職員からの意見やアイデアについて話し合い、計画作成に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	症状の安定している入居者が多く、日々のモニタリングや家族意向を把握しながら、3ヶ月周期での計画の遂行状況、成果等を評価し、家族にも定期的に報告している。現時点では当初計画が継続されている。見直し周期前に、日々のケアで気づきや変化が見られた際には、すぐに見直しをするとしてしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科医への通院支援、遠くに住んでいる家族来訪時の一緒に部屋での宿泊支援、入居者のふるさと訪問支援、帰宅支援などその時々希望に応じた柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問、月1回の協力医往診を行っており、微熱などでも家族に連絡するなど、家族から感謝され、頼りにされている。今後、内科以外にも関係強化を図りたいとしており、期待したい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族への打診を行っているが入居者が元気である事もあり、家族の意向や意見がだされておらず、対応が定まらない。今後も、家族、協力医師との話し合い、意向把握に努めるとしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「おかあさん」と呼ぶなど、本人が喜ぶような呼び方の発見に努めており、本人も笑顔で応えるなど、明るい雰囲気リビングに漂っている。部外者が直接入居者が居るリビングに入れないような仕切り設置、間取りとなっている。記録等は外から見えないキャビネットに収納されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴が異なることやその日その日によって状態が異なる事を認識して、無理をせず、笑顔で接することを大切にして、その人に合った暮らしを発見するような気付きを心がけていることが職員面談で感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はゆったりと話しかけ、楽しさを引き出しながら、自分のペースで食事ができるようさりげなく支援している。食事後の片付け、清掃など入居者が自分のできることを自発的に当然のように行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を可能としている。入浴順番が偏らないようくじ引きで決めており、入居者の楽しみの一つのようなのである。脱衣場に木製ベンチ、暖房装置が設置され、ゆったりと一休み出来るように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の誕生日には、職員手作りの誕生ケーキで全員がお祝いしたり、編み物を一人の入居者が始めると他の入居者も始めるように誘導するなど喜びや張り合いをもって日々過ごせるように気を配っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩同行、買い物同行など馴染みの場所・店へ出掛ける支援をしている。この他、お花見、ボタン園など近辺の観光場所へ出かけたり、新年会やクリスマスに回転寿司店へ出かけたりと、入居者の希望に沿った外出支援も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関には鍵をかけてない。敷地周辺の散歩時には近隣の方に挨拶し、顔見知りになってきており、花などの差し入れもあり徐々に見守り・声がけしてもらえるようになってきている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を職員、入居者を含め今年、5月に実施している。職員も実践することによって、自信と今後の課題を見つけており、寝たきりの入居者の避難誘導方法などをケア会議で検討し進める事になっている。非常食用食糧として、飲料水、米など準備している。	○	今後は年2回、内1回は夜間を想定した避難訓練などを定期的実施していただきたい。また、地域の住民の方の参加、協力を得る事を、運営推進会議の場などで論議して進めていただきたい。更に、地域の消防団の協力を得る事もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を専門業者から購入している。献立表にはカロリー計算結果とレシピ(調味料の目安も記載)が記載されている。入居者の状態にあわせ、とろみ、きざみ付けなど配慮している。個人記録に食事摂取量を記載し、体重チェックは月1回、血圧、脈拍は毎日測定し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを兼ねた食堂、廊下の壁には、月別に貼られた入居者誕生会写真や旅行会、各種行事の写真や季節色のある飾りで生活感や季節感が感じられるよう配慮している。食堂には、畳敷きの間やソファがあり、入居者がそれぞれの思いのところでゆったり話したり、好きなことができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は約8畳敷きと広く、家族と一緒に泊れたり、過ごせるようになっている。壁には誕生会や外出時の写真や飾り物が貼ってあり、入居者の励みとなっていると思われる。また、自宅で使い慣れた調度品や仏壇が持ち込まれ、入居者が居心地よく過ごせる場所となっている。		